

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年1月13日水曜日

ADWはresult_cache_modeがforceであることに注意

Autonomous Databaseのワークロード・タイプとして、Data WarehouseとTransaction Processingがあります。このワークロード・タイプで、初期化パラメータresult_cache_modeが異なります。ADWはforceになっており、その場合に少々コーディングで気を付けるべきことがありました。

2023年5月16日追記 ----

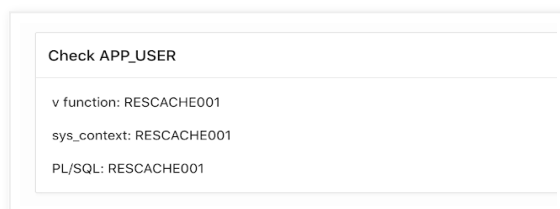
May 2023のアップデートで、ADBのRESULT_CACHE_MODEを変更できるようになりました。

[What's New for Oracle Autonomous Database on Shared Exadata Infrastructure](#) RESULT_CACHE_MODE Parameter is Modifiable at Session and System Level

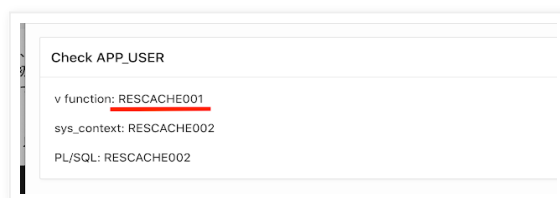
タイプがPL/SQL動的コンテンツのリージョンを作成し、以下のコードを記述します。

```
declare
  l_app_user varchar2(80);
begin
  select v('APP_USER') into l_app_user from dual;
  http.p('<p>v function: ' || l_app_user || '</p>');
  select sys_context('APEX$SESSION','APP_USER') into l_app_user from dual;
  http.p('<p>sys_context: ' || l_app_user || '</p>');
  l_app_user := v('APP_USER');
  http.p('<p>PL/SQL: ' || l_app_user || '</p>');
end;
```

最初にユーザーRESCACHE001でサインインし、このリージョンの表示を確認します。



サインアウトし、次にユーザーRESCACHE002にてサインインします。同じリージョンの表示が以下になります。



つまり、以下のSQLは結果キャッシュが働くため、以前の検索結果が返されることがあり得ます。

```
select v('APP_USER') into l_app_user from dual;
```

Oracle APEXが提供するvファンクションだけではなく、ファンクション全般に言えることだと思いますが、v('APP_USER')の結果はOracle APEXアプリケーションにたいして影響が大きいので要注意です。

なお、result_cache_modeがmanualである、Autonomous Transaction Processingでは発生しない現象です。

完

Yuji N. 時刻: 14:02

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
